

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4571800186
法人名	社会福祉法人 報謝会
事業所名	みやま荘
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字蒲牟田7351-2 (電話) 0984-42-5001

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年6月29日

## 【情報提供票より】(19年 6月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 1 月 1 日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	18人 常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.7

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	8,500 円	
敷 金	有( 100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 980 円			

## (4) 利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	26 名	男性	0 名	女性	26 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険高原病院、 ひろた内科クリニック
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームみやま荘は霧島山を見渡せる一面緑豊かな田園地にある。各ユニットの玄関前には長椅子が置かれ、利用者は自由に他のユニットの方へも遊びに行くことができる。終末期の在り方については、家族からの要望を快く受け入れ、利用者や家族が安心して利用できるよう支援している。利用者の栄養管理には母体施設の栄養士の助言が得られ又、看護面でも母体施設の看護師にいつでも相談できる体制がある。利用者に食事の楽しみを持ってもらえるように、週1回は町の料理屋から出前を取り寄せ、外食の気分を味わってもらっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は、前回の評価に前向きに取り組み、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が見られた。管理者及び職員は、身体拘束による弊害を理解しており、拘束のない介護に取り組んでいる。ホーム内は静かな雰囲気では利用者には穏やかに過ごされている。地域への発信や交流は、今後の取り組みの課題になっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は、評価の意義とねらいについて理解してはいるが、評価の一連の過程を職員全員で取り組むには至っていない。自己評価の内容は、家族等や外来者も自由に見られるように玄関脇の棚に置かれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催しており、ホームの取り組み内容の報告や話し合いを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等が意見、不満、苦情を言ってもらえるように家族会や家族の面会時に声かけしたり、苦情・相談窓口を設けて担当者を明記している。さらに介護相談員の受け入れや気軽に意見・苦情を出せるように工夫してほしい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りや敬老会等には地域の人々に来てもらったり、福祉系高校の実習生の受け入れや保育園児、小・中学生の訪問を受け入れている。さらに地域の一員として自治会や地元の行事に参加するなど、地元の人々との交流に取り組んでほしい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関正面に理念が掲示されているが、「地域密着型サービス」の役割は反映されていない。	○	地域密着型サービスの役割を考えながら「みやま荘」としての理念を作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、利用者本位に、その人らしさを大切に、ひとり一人に寄り添い安らぎのある生活を心がけて支援している。理念について日々の中での話し合いや確認に対しての取り組みが少ない。		理念について、日々職員間で話し合いの機会を持ち、意識づけをする取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所に保育園児や小学生が遊びに来てくれたり、中学生がボランティア活動として来てくれる。地域の自治会や老人会、行事に参加するなど地元の人々との交流の取り組みは少ない。	○	地域住民の一員として、地元の活動や地域住民との交流も取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義とねらいについて理解しているが、評価の一連の過程を職員全員で取り組むには至っていない。自己評価の内容は、家族等や外来者が自由に見られるように玄関脇の棚に置かれている。		全職員で取り組み、事業所の質の確保に活かしていく取り組みをしてほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況などについて報告や話し合いを行っている。	○	運営推進会議では、今後、評価後の改善への取り組みをモニターしてもらうなど質の確保につなげる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者アンケート調査の協力など町担当者との関係作りを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理などについては、家族の面会時や電話及び定期的に書面による報告を行っているが、職員の異動についての報告はしていない。	○	職員の異動についてもホーム便り等利用して、家族等に知らせてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談担当者を明示し、家族の訪問時や家族会などで常に問いかけ、何でも言ってもらえるように心がけている。事例は少ないが、意見や苦情などは前向きに受け止め、質の向上に活かしていく姿勢がある。	○	さらに、家族会で外部者に気軽に安心して意見などを表せる機会作りなど工夫してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置異動は法人内の定期異動により行われている。	○	利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制作りや家族等の不安への配慮をしてほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場では、先輩職員がその場で助言してくれる体制がある。法人外での研修内容は勉強会で報告を受け、または復命書により全職員が共有できるようにしている。	○	限られた職員体制の中で法人外の研修を受ける機会の少ない職員が、働きながら学べるように、定期的に外部者に入ってもらうなどの工夫を望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者連絡会に加入し、勉強会や交流の機会を設け質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に事業所に見学や遊びに来てもらい、徐々に馴染みながら利用に移っていきけるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、年長者である利用者から昔の話を聞きながら、利用者の人柄や思いやりの心を学んだり、生活の技や昔の生活のしきたり等を教えてもらい、一緒に過ごすことの大切さを実感しており、共に支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方の場合は、家族から情報を得るように働きかけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、利用者との日々の関わりの中での気づきや家族の意見を伝え、利用者本位の暮らしを介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月に1回の定期的な見直しを、また、利用者の変化に応じて随時見直しを行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、終末期ケアの事例が1件ある。家族の希望により、終末期を迎えた利用者を家族が交代で付き添われ、穏やかに最後の日々を過ごせるように支援した。また、お盆や正月以外にも本人の希望があれば外泊も支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に、家族同行での受診となっているが、家族が同行できない時は職員が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在り方について、本人や家族との話し合いは行っているが、早い段階からのかかりつけ医との繰り返しの話し合いは不十分である。	○	重度化した場合の対応の在り方や終末期における医療処置の対応について、本人、家族、かかりつけ医や看護師等との早期からのくり返しの話し合いの取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者ひとり一人の誇りやプライバシーを損ねない対応や秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは作ってあるが、入浴の支援など利用者の希望に応じて柔軟に対応するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立や食材の買物、調理は母体施設で行われており、料理の受け取りと盛り付けや後片付けなどを職員と利用者は力量に合わせて行っている。職員と利用者は同じ食卓を囲んで同じものを楽しみやすい雰囲気で作っている。	○	食事に関する一連の作業を利用者と職員と共に行う取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯を事業所側で決めているが、利用者の希望があれば対応している。	○	利用者ひとり一人の生活習慣やその時々希望を大切にしたい支援の取り組みを期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	漬物や手打ちそば、ちまき作り、つわぶきの煮物など季節の料理作りなど利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。母体施設へ知人に面会に行ったり、春や秋には花や紅葉を見に、ミニドライブを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の庭には芝生が植えてあり自由に屋外に出ることができる。時には家族との外食を楽しんだり、墓参りをされている。	○	利用者の希望や状態に応じて、買い物や散歩など日常的に外出できるような個別の支援を期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、日中居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、施錠はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、職員と利用者が一緒に、定期的に防災・避難訓練を行っている。	○	日頃より、地域住民に事業所の災害時対策に関する理解を求め、協力が得られるように働きかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員は情報を共有している。又、母体施設の栄養士に定期的にチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間など共用生活空間は生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら利用者にとって居心地の良い場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族と一緒に写真や使い慣れた洋服掛けなどが持ち込まれている。また、ある利用者の居室には神棚も置かれ、本人が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		